

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中央区晴海1-8-16 晴海トリトン2F
園名	アスク晴海保育園

1. 活動のテーマ

身の回りの物の英語での呼び方を知ろう。
自然の中にある物を英語で学ぼう。

<テーマ> 自然

<テーマの設定理由>

TV等のメディア経由で、単語として英語を知っている子が多くいるが、意味や何を指すのかが曖昧な子も多かった。当園ではグローバルな知識のために様々な国のことを学ぶ機会をたびたび設けていたため、今回はすくわくにて物と言葉がむずびつようにテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

月1回キャスト講師を招致し、すくわくを実施。

6～9月

生活、園内の物を英語で知ろう。

10～1月

自然の中の動植物を英語で知ろう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・英語カルタ、音声読み上げの付いた英語辞典、英語の絵本
- ・カルタは4, 5歳児で出来るように玩具コーナーへ常設。
- ・英語辞典は3歳児をメインに複数人で使うことをメインにし、自由に取り出せるようにした。
- ・英語の絵本は、子ども達に馴染みのある絵本の英語版を使用。

<活動の内容>

園内の日常的に使う、見る者の英語をクイズや辞典で知る。
家の中の物や、食材などに範囲を広げる。
散歩に出た際に、英語で知りたい物を見つけてくる。
講師と一緒に上記の物を調べる。生き物の塗り絵をしながらクイズ等で学ぶ。

4. 探究活動の実践

問いを考える：

そもそも英語事態に興味を持っていた子どもたちは、自然や身の回りにも当たり前英語が存在することに気付いた。その姿から「これは英語？」「そもそも日本語との違いは？」といったところに関心を持ち始めた。そこから「私の好きな物、持っているものは英語でなんて言うの？」といった問いへと発展していき、子どもたち自身が調べたり試したりする探究活動へとつながっていった。

探究活動の様子：

園内の実物や写真、絵本などを通して、グループごとで「この英語、知ってる」「これも英語！？」などと話しながら興味を広げていった。その後、徐々に園以外の場所にある英語に着目すると「ダイナソーは英語だよ」など知っていることを友だち同士で伝え合う姿が見られた。

活動の中で子どもたちは「英語と日本語の違いってなに？」「虫にも英語の名前があるのか」といった問いについてグループで考え、友だちと話し合う姿が見られた。自分の知っていることを伝え合い、友だちの話を聞く中で新しい気付きを得ている様子も見られた。

図鑑を用いた英語探しでは、「恐竜って日本語だけど、名前は英語なんだ」「カタカナで書くものは英語かもしれないね」と子どもたちが自分で考えながら活動できるように関わった。

活動を通して、子どもたちは友だちと考えを伝え合いながら学びを深め、自然や環境について主体的に考える姿が見られるようになった。グループでの対話や協同を通して、探究活動が広がっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自分達で図鑑をめくり覚えたものを英語で発音してみたり、分からない物は保育者や講師に聞いたりしていた。それになれてくるとお互いに英語クイズを出し合うなどの姿が見られた。自分の興味のある分野は、積極的に聞いて回っていた。すくわく以外にも、職員との英語カルタを楽しんだり、職員に対してクイズを出したりしていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

英語＝難しいという感覚が子どもにはあまり感じられず、積極的に探究する姿があった。また、4、5歳児は自身の興味のある分野ではより積極的に調べたり聞いたりしながら英語を楽しんでいた。視覚的に分かりやすいものがあると、子どもたちの興味を強く引くことが出来ていた。



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中央区晴海1-8-16 晴海トリトン2F
園名	アスク晴海保育園

1. 活動のテーマ

身の回りの音に興味を持つ。

<テーマ> 生活と音

<テーマの設定理由>

複合施設に入居している為、様々な環境、音を身近に感じることが出来る。園児たちも日々いろんな音を耳にし興味を示す様子があったため、今回のテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

月1回キャスト講師を招致し、すくわくを実施。

6～8

月

室内で発見できる音を自分たちで探したり、作り出したりする。

9～11月

園外に出て、音の探索をおこなう。

12～1月

上記の中で自分の気に入った音を、描画してみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ミュージックパッドを使用してのゲーム遊びを通じて、使い方や音の出し方が理解できるようにした。
- ・すくわく活動以外でもミニ楽器を使えるように、コーナーを設けた。
- ・職業絵本をつかって、身近な仕事に結びつく音を想像できるようにした。

4. 探究活動の実践

身の回りの自然音、人工音を探す、自分達で出せる音を探す。
戸外での環境音を探す。
上記の音を言語化、視覚化してみる。

<活動の内容>

・3.4歳児

問いを考える:目を瞑ってどんな音が園内にはあるのかからスタートし、園内探索をしているいろいろな音を探した。子どもたち自ら「赤ちゃんの鳴き声は音かな?」「おみずは…」と疑問を持ち始めた。そこから音と声の違いや同じ部分を探せるようにしていった。

探究活動の様子

耳を澄まし、目をつむった状態で音を聞いてみると聞き馴染みある音でも案外気づかない様子だった。そこから実際に保育園で聞こえる音を探し友だち同士で職業絵本を見たり他の図鑑を見たりしながら「だれがならしているのかな?」「せんせいたちかも」と会話が広がっていた。

音をきいて絵を描く際には色や形を自分なりにイメージすることが難しく、友だちのを見て真似しているようだったが、保育者がイラストを描くことで、自分なりに表現しようとする姿が増えた。

・5歳児

問いを考える：目をつぶって音に注目できるようにするところからスタートした。絵本を用いてどんな音が聞こえてくるかを想像してみて「音ってなんでなるんだろう」「どうやってこの音は鳴っているのか」「その音を出すにはどうしたらいいのか」という問いがでてきたところから、自分たちで身近にある廃材を使って自分たちで音を作り出していくところへ発展させていった。

探究活動の様子

音に注目できるように目を閉じて音を聞くことから始めた。飛行機や掃除機の音など生活をしている中でよく聞く音に気づく姿が見られた。ミュージックパッドにて学んだ音を玩具を使って音を鳴らしてみることにすると、それぞれの子が工夫して音を出そうとしていた。続いて保育園の中、外で聞こえる音を探していったふだんは気にしない音も見つけることができていた。聞こえた音をなんの音か想像し絵に描いていくこともした。同じ音からでも別の物を想像して絵に描く姿が見られた。グループごとに絵に描いたものを発表し合うことでいろいろな表現があることにも気づいていた。絵本からもどんな音が聞こえてくるかを想像してみている。そこから聞こえてきた音を出すにはどうしたらいいのか考えていった。楽器を用意すると近い音が鳴るものを選んだり鳴らし方を工夫したりしながら音を鳴らすことができていた。複雑な音を表現するために「キャストの先生のピアノを使いたい」などいろいろな意見が出てきた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

3.4.5歳児合同

- ・手を叩く音、手で床を叩く音など叩く対象が変わることで音の高低や、質が変わることをみつけ、手を叩く時に友だちや職員とでも同じになるかなどを確かめていた
- ・ミュージックパッドに乗る時に、そっと乗るのかジャンプして乗るのか、それで何が変わるのかを各々が相談し予想していた。左記に職員も加わり、子どもがジャンプして乗った時と大人がジャンプした時の違いを実際に確認した。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・晴れや雨の時は子どもたちの表現の違いがはっきりと出ていた。車の通る音の違い、雨の日は水たまりが出来る等。
- ・音はすぐに表現できるツールだったため子どもたちもすぐに馴染んでいた。今まであまり使ってこなかったものを使用することで、興味を刺激し継続性に強度が持っていた。

